



## 第47号

中田 祥子  
KCCN 理事  
消費生活専門相談員

### お店で教えてもらったこと

道の駅でいちごがたくさん並んでいました。値段はいろいろ、見た目はどれも赤くて違いがわかりません。いちごを並べていた生産者の人に「やっぱり値段が高いのが甘いですか」と話しかけました。少し間があって「そんなことはないですよ。うちは昔ながらの土で肥料を入れて作ってますが、よそはほとんど水耕栽培です。」

私はそのような答えを全く想像していませんでした。設備投資やその維持費など商品が並ぶまでの費用が価格に影響していることは言われてみれば当たり前のことですが、いざ商品を選ぶときは美味しいかの尺度としての価格しか考えていなかったことに気づかされました。

それで思い出したのですが、スーパーマーケットの魚売り場でのことです。天然のブリのパックと養殖のブリのパックが並んでいました。「天然」より「養殖」の方が高かったので、価格表示を間違えたのかと思いました。売り場の人に、「養殖の方が高いんですね」と尋ねたら、なんで疑問なのという感じで「餌代など掛かってますからね」と言われました。それはその通りです。飼料や、燃料や設備や人件費など総合して商品としての価格が決まるのはその通りです。その時の相場によってその逆転もあるということです。説明を聞けばそうなのですが、私の中では衝撃でした。

2つのことをつなげて考えてみると、はっきり気が付いていなかったのですが知らず知らずのうちに商品の価値を価格から見ていることです。商品の価値と価格が急接近していつの間にかその余地が狭くなっていました。わかっているつもりでしたが、価格は商品選びの重要な要素ですが、最重要な情報ではないということです。価格にとらわれない確かな目を育てて買い物をしたいと思います。そして、価格の向こうを見ること、また働く人のことを意識することを忘れずにいたいと思います。

そのようなことを考えたのも、店での何気ない会話がきっかけでした。会話の持つ広がりや効果というものを感じました。

今、店の人と話をしながらの買い物風景は消えていっています。私の町でも商店街の空き店舗が増えています。高齢社会を迎えて、小売店の閉店は買い物難民の問題だけではなく、外出機会の減少や、コミュニケーションの場の消失、消費者力の低下など広い視野での考察と対策が必要ではないかと思っています。

(2018年3月)